

第4講座「インパクト評価」NPO法人政策21 副理事長 熊谷智義

I インパクト評価とは

インパクト評価とは、事業が対象社会にもたらした変化（インパクト）を測定する評価手法である。

II インパクト評価の5つの基本デザイン

1. 事前・事後比較デザイン

シンプルに、事前、事後の指標値を比較し、差があれば因果関係があったと推定する。

2. 時系列デザイン

施策実施前の長期的トレンドを導き出し、施策の実施後にトレンドが変わっていれば、因果関係の存在を推定する。

3. 一般指標デザイン

全国平均値、全県平均値などの一般指標値を比較に用いる。

4. マッチングデザイン

可能な限り近似のグループを選定して比較に用いる。

5. 実験デザイン

施策の実施前に、無作為割付により、実施グループと比較グループに分ける。成果指標に現れた違いは、「介入を適用されたか否か」によると判断することができる。

III インパクト（4種類）

社会的インパクト評価では、「当該事業や活動によって生じた短期、長期の変化を含めた社会的、環境的なアウトカム」と定義される。タイプ1～タイプ3、幅広く用いられている。

IV 社会的インパクト評価

事業や活動の短期・長期の変化を含めた結果から生じた「社会的・環境的な変化、便益、学び、その他効果」を定量的・定性的に把握し、事業や活動について価値判断を加えること。

評価の目的：①事業や活動における学び・改善に活用すること、②事業や活動の利害関係者に対する説明責任を果たすこと。

社会的インパクト評価の手続き（流れ）では、①事業の目的を議論して合意する、②ロジックモデルを書く、これらが特に重要となる。

本日のふりかえり

- 「インパクト評価」とは何か、その概要について（5つの基本デザイン）
 - それぞれの事業や活動で利用を
- 「社会的インパクト評価」とは何か、イメージ、概要、流れについて
 - 事業や活動、個別に検討を
- 「ロジックモデル」の重要性
 - 事業や活動ごとに、試作を